

作物名：キャベツ

病害虫名：オオタバコガ（学名：*Helicoverpa armigera*）



幼虫



結球部を食害する幼虫



成虫

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・ 幼虫が葉を食害する。結球部に食入すると被害が大きい。
- ・ 卵は乳白色，直径 0.5mm 程度の饅頭形で外葉に点々と産みつけられる。ウワバ類の卵との区別は難しい。
- ・ 若齢幼虫は外葉に留まるが，中齢以降の幼虫は結球部に食入ようになる。
- ・ 幼虫の体表には短い刺毛があるので，他のチョウ目幼虫と見分けられる。

2 発生生態及び発生好適条件

- ・ 大豆，果菜類，花き類など，広範囲の作物を食害する重要害虫である。
- ・ 本県のキャベツほ場におけるフェロモントラップへの雄成虫の誘殺は，5～10月に確認されている。特に，9月以降に誘殺数が増加する。
- ・ 蛹で越冬するとされているが，寒冷地では越冬できない。
- ・ 高温少雨が発生に好適である。

3 防除方法

(1) IPM 体系

- ・ 大麦リビングマルチと他の防除方法（定植前灌注処理，緑黄色 LED，交信攪乱剤及び BT 剤）を併用することで，化学合成農薬使用を半減できる。

(2) 化学的防除

- ・ 防除効果が高い中齢幼虫までを対象に薬剤防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性の発達防止のため，同一作用機構分類に属する剤の連用を避け，計画的にローテーション散布を行う。
- ・ 薬液は，葉裏にもよくかかるよう散布する。
- ・ 同じチョウ目害虫の，コナガ，モンシロチョウ，ウワバ類，ヨトウムシ類と同時防除できる。

(3) その他

- ・ フェロモントラップへの成虫の誘殺動向に注意する。
- ・ ほ場周辺の野菜類・花き類も発生源となる場合があるので注意する。

4 出典

- (1) 参考文献：農業総覧 病害虫防除・資材編 3（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

(2021 年 3 月作成)